



「やった、ついたー」 - 土器の接合に挑戦! -

## 「うまくつくかな?」

—埋文センターでの職場体験学習—

アテネオリンピックに燃えた2004年夏。多くの方が研修や体験学習、見学で埋蔵文化財センターを活用しました。7月には職場体験学習で国分南中学校の生徒6名が訪れました。

1日目は石器の水洗いや土器の接合などを行い、2日目は実測などの仕事を行いました。センターで働いている大勢の整理作業員さんに交じって、整理作業を体験しました。

整理作業には根気や技術が求められます。不安な面持ちだった6人もアドバイスをもらったり励まされたりするうちにしだいに笑顔を見せはじめ、整理作業員さんとのコミュニケーションも図られたようです。この2日間で働くことの大切さ、実際の仕事の様子など学校の授業では経験できない多くのことを学んだのではないのでしょうか。

最初に埋蔵文化財センター」にきて思ったことは、思っていたのとちがってたくさんの人々が働いていたことと、仕事の内容で自分が考えつかないことが多かったことでした。土器の大きさも現れたり、絵を塗ったりするなんて、自分の想像ではなかったものだから、ちかちかとびっくりしました。あと、本を借りたりする作業も意外だなと思いました。どの仕事場の人も、みなな一人としていたので、この仕事をすることはなかなか難しいなと思いました。自分には集中力がないのを見ているうちに、自分には無理があるなと思いました。実際に仕事をさせてもらったときは難しく、どうして回りにいる人は、こんな作業もこなせるのだろうかと思ってしまう。(笑) ... 今度の間に、教わったものは覚えられないぞ。今度、時間があたらうかおれたいと思います。これからますます暑くなりますが、無理をなさらないでください。ありがとうございました。

職場体験に訪れた桜島中学校浜崎さんからの手紙



「きれいに落ちたぞっ」 - 石器の水洗い -

鹿児島県立埋蔵文化財センターの見学は、土曜・日曜・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、入館料は無料です。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。

埋蔵文化財センターホームページ：<http://www.jomon-no-mori.jp>

### 目次

- ・埋文センターでの職場体験学習 ... 1
- ・埋文センターでの夏の研修 ... 2
- ・遺跡紹介 ... 3
- ・シリーズ「センターのしごと」 ... 4
- ・シリーズ「むかしむかしの衣食住」 ... 5
- ・ただ今開催中の特別企画展  
上野原縄文の森「秋まつり」  
「かごしま黒の考古学」 ... 6

# 子どもたち



火がつくかな？がんばれー！

## 鶴羽小の子どもたち

8月5日鹿屋市の根木原遺跡で、遺跡の近くにある鶴羽小学校のみなさんが発掘体験学習に参加しました。

子どもたちは火起こしや勾玉作り、芋の石蒸し料理などを体験しながら、ふるさとの遠い祖先の生活について学びました。



## 新人の先生たち

今年はいじめて先生になった新任教職員を対象とした講座を、8月19、20日の2日間にわたって実施しました。

1日目は埋蔵文化財センターで講義や土器の水洗い、拓本とりなどの実習を行いました。2日目は松山町の蕨野B遺跡で発掘体験や火起こし、勾玉作りをしました。

研修では「昔の生活を実感することができた。授業に活かしたい。」「長い歴史を感じると共に命の尊さを実感した。」といった感想をもたれたようです。

このほかにも、地域貢献体験の研修で、国分市内の小中学校の新任の先生方が埋蔵文化財センターで実習を行いました。

# 先生



発掘現場で測量中です。

# 市町村専門職員

7月28日～30日に県内市町村の埋蔵文化財専門職員を対象にフォローアップ研修を実施しました。研修は1日目に土器実測の講義と実習が行われ、2日目は石器実測の講義・実習、3日目は遺構の写真撮影の実習が行われ、参加者全員が真剣な表情で研修に取り組んでいました。

このほかにも、教師になって11年目になる先生たちの研修や小学校の先生による遺跡の発掘体験、大学生の博物館実習など多くの人たちが埋蔵文化財センターに足をこび、いろんなことを学んでいかれた2004年の夏でした。



「遺跡の写真撮影で大切なのは...」

# 夏の研修



「和紙はこう切って...」土器の拓本の研修です。



学校では見られない先生方のすがた！一生懸命、発掘しています。

## 人間の足形，出土！？ —芝原遺跡（金峰町）—

万ノ瀬川河川改修事業に伴う発掘調査（県土木部）

金峰町芝原遺跡で縄文時代後期（約3～4,000年前）のものと思われる足の形をした土製品が出土しました。

人の体やその一部を粘土などで模して作ったものを、「土偶」あるいは「〇〇形土製品」と呼びます。鹿児島県では、国分市上野原遺跡で出土した土偶が最も古い（約7,500年前）と言われています。近くでは、加世田市川畑にある上加世田遺跡で出土した縄文時代晩期の土偶（約2,500年前）などがあります。しかし、このような足形の土製品はあまり例が無く、縄文時代の人々を知る重要な手がかりと言えるでしょう。

ちなみに、これは右足のようで、サイズは10cmでした。赤ちゃんの足でしょうか？



出土した足形の土製品



謎の足形が出土した様子です。ちょうど足の裏が見えているところです。

## Introduction of ruins in Kagoshima

# 遺跡紹介

今回は、旧石器時代と縄文時代の三遺跡を紹介しましょう。いずれも現在発掘調査中ですので、見学や発掘体験などを御希望の方は埋文センターまで御連絡ください。



## ここで石器を作っていました

### —宮ノ上遺跡（川辺町）—

南薩縦貫道（川辺道路）の道路整備に伴う発掘調査（県土木部）

清水磨崖仏の北西に広がる鳴野原台地にある宮ノ上遺跡は標高約150mの緩やかな傾斜地に位置します。縄文時代後期（約3～4,000年前）の土器が大量に出土し、当時の生活の拠点がこの丘陵地にあったことが想像できます。また、旧石器時代の遺物も数時期にわたって出土しました。中でもナイフ形石器文化期の頁岩製の原石、石核、剥片が集中した場所が数か所見つけられました。このようにまとまって出土したことから、この遺跡が県内でも珍しい近辺の石材を使った石器製作所の跡であることがわかりました。



ナイフなどの石器を作ったあと。剥片とよばれる石のかけらなどが集中しています。



## これは何でしょう？

### —根木原遺跡（鹿屋市）—

国道220号古江バイパス建設に伴う発掘調査（国土交通省）

鹿屋市にある根木原遺跡から人間の鼻に似た土製品が見つかりました。よくよく観察すると穴が4つあいています。どうやら土器の口縁部にはりつけてあった取っ手のようです。あいている穴にひもでも通したのでしょうか。数日後には同じような土製品がすぐ近くから見つけられました。非常によく似ていますので対になるのではないかと考えられます。出土した層から推定すると、縄文時代後期（約3～4,000年前）のものと考えられます。この時期には取っ手のついた土器が作られています。



それぞれの孔の入り口にはヘラのようなもので削ったあとがあります。



シリーズ Work of Kagoshima Prefectural  
Archaeological Center

# センターの しごと

第2回  
～「実測・拓本」編～

みなさん、またお会いしましたね！ここでは前回に続いて埋文センターの仕事について紹介してみたいと思います。埋文センターでは約200人の方々が整理作業などの仕事をしています。今回は、長井真理子さんと齊藤千鶴さんに土器の実測と拓本について感想を書いていただきました。どんな思いで仕事をなさっているのか……。ぜひ読んでみてくださいね！



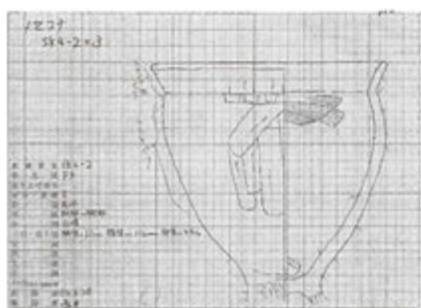
## 長井真理子さんの感想 - 農業センター遺跡群担当 -

実測とは、土器や石器などの立体的な遺物を平面の紙に描き写す作業で、厚みや器の内・外面の様子も正確に表現しなければなりません。特殊な道具を使って計測するため、慣れるまでが大変でした。最初はただの河原石のように見えていた丸い石も、よく観察すれば磨ったあとが見えたり、つるつるした感触があったりして、昔の人びとが使っていた様子が自分なりに想像できるようになりました。

実測の仕事は、かねてガラスの向こう側に展示されている遺物を間近で見たり、触れたりすることができます。その中で古代の人びとの芸術性や日常生活を思い描きながら仕事ができる楽しさや喜びを感じています。皆さんも数千年の時を越えた息吹を感じに埋文センターに来られてはいかがでしょうか。



実測には集中力が必要です（長井真理子さん、手前）。



実測図

### 実測道具あれこれ

土器や石器の長さ、厚さ、形などを測るための道具です。これらの道具をどのように使っていると思いますか？ぜひ、埋文センターにいらしてご覧になってください。



## 齊藤千鶴さんの感想 - 三角山遺跡担当 -

拓本とは、土器の形や文様を紙に写すことです。和紙に水を含ませ、伸ばしながら密着させるのですが、しわが寄ったり、破れたりしてなかなかうまくいきません。また、たんぼでたたくタイミングは温度や湿度によって変わるので、それを見極めるのが大変です。

しかし、きれいに模様が浮かび出ると、その苦労も吹き飛びます。竹や木の棒、縄や貝殻を使ってつけられた模様は、何千年も前の人々が施したとは思えないほど、とても繊細で美しいものです。

これからも、ひとつの土器から古代の人びとに思いを馳せ、また技術やセンスに敬意を表しながら作業を進めていきたいと思っています。



拓本の例



「見えなかった細かな文様が拓本で浮かび上がってくるとうれしくなります」と齊藤千鶴さん（手前）。



拓本に使う道具（右がたんぼ）



縄文時代の集石（上野原遺跡）。石蒸し料理のあとと考えられています。



カマドのあと（芝原遺跡）。集石やカマドはさしずめ現代のコンロや電気調理器といったところでしょうか？

煮炊きの跡には、炉、集石、カマドなどがあります。この中に炭になったものなどが残る場合があります。炭になったものは、こげや木がほとんどですが、たまに種子（ドングリ、モモなど）の形を残したものがみつかることがあります。また、魚や動物の骨などが破片で見つかることもあります。これらの資料から食生活の一部が明らかになるわけです。現代の調理では直接火を用いずに電気を使ったものが多くなっていますね。調理に火を用いることを知らない子供たちが多くなって行くのでしょうか。

調理具は土器（鉢、甕、鍋、釜）や石鍋、鉄鍋などの煮炊き具と、石皿、磨石などの加工具のおおよそ2種類にわけられます。特に縄文時代になって土器が発明されたことによって煮炊きの技術は発展しました。例えば、煮沸を行うことは根菜類（イモなど）に含まれるでんぷん質の消化を助けることになります。また、土器そのものからはどのようなものを食べていたのか、はっきりとはわかりませんが、煮炊きの道具がどのように移り変わったかを調べることによって、おおよそどのようなものを食べていたかがわかる場合があります。例えば、米などを蒸すために使われる甕が発見されると、そのころには稲作が行われていた可能性が考えられます。このほかにもまだまだ、書ききれないことがたくさんあります。みなさんも「食」についていろいろと考えてみてください。



## 食

食は生活の中心といっても過言ではありません。人類の歴史は「食」または「食」を取り巻くものとともに発展していったといってもいいくらいです。私たちは、普段なにげなく料理をし、食べていますが、実は「焼く」「煮る」といった火を用いた調理をするのは人間だけです。具体的にあげると、動物は「水」を飲みますが「湯」は飲みません。「猫舌」というのは猫だけではないわけです。

今回は「食」についてのあれこれをたどりまます。ところで、昔の人々はどのような料理を食べていたのでしょうか？前回の「衣」と同様に、昔の人々が食べていたものそのものが発見されることはほとんどないので具体的にどのような料理を食べていたのかははっきりとはわかりません。ただし、煮炊きの跡、調理具などやそれらに残っていた炭からどのような食材を用いていたかわかる場合があります。



縄文時代のはじまりのころに作られた土器（三角山遺跡）。中にこげたあとが残っており、煮炊きに使われたと考えられています。

磨石と石皿（上野原遺跡）。木の实や植物の繊維などをすりつぶしたと考えられています。



ただ今開催中の **特別企画展**  
 Uenohara Jomon no Mori, Kagoshima

上野原縄文の森 第10回特別企画展  
**発掘された  
 鹿児島県の文様**

「上野原縄文の森」展示館1階の企画展示室では年に4回さまざまなテーマをもとに県内で発掘された遺跡や遺物などの展示を行っています。現在は「発掘された鹿児島県の文様」をテーマに平成16年10月23日から翌年1月30日までの間、企画展を開催しています。

今回は、遺物に残された「文様」に注目しています。卑人の楯に描かれた渦巻き文様、縄文土器に施された文様とその移り変わり、染め付けに描かれた文様や動物の絵画など、文様から見えてくる当時の人々の生活や思いを感じ取っていただきたいと思ひます。

なお、11月20日(土)13時30分から、講演会『かごしまの原始文様』（講師：埋蔵文化財センター 東和幸文化財主事）を予定しておりますので、ぜひ上野原縄文の森にお越しください。



平城宮跡出土の「卑人の楯」（古代・模造品）



上野原遺跡出土の耳飾り（縄文時代）

使われていた時代は違うのに、この2つの文様はよく似ていますね。

上野原縄文の森 **秋** まつり

上野原縄文の森では、ジョイJOYじょうもん体験や春まつりなどさまざまなイベントが行われています。さまざまな体験活動ができると家族連れのお客さんも多く、評判も上々です。

10月2日(土)、3日(日)秋晴れの空のもと上野原縄文の森で「秋まつり」が行われました。石器作りの体験では、黒曜石でナイフなどの石器を作りました。慣れない手つきで作った石器でしたが、切れ味は抜群！実際に紙を切るなどして、驚きの声があちこちから上がってきました。そのほか、音楽会や民俗芸能祭なども行われました。秋の気配漂う縄文の森で、古代へのロマンを感じながらの楽しいイベントとなりました。



今後も家族や友達と参加できるイベントが盛りだくさんです。お申し込み・お問い合わせは上野原縄文の森までどうぞ！

TEL 0995-48-5701

HPアドレス <http://www.jomon-no-mori.jp>



石をみがいて石斧を作っています。うまくできたかな？

\*\*\*\*\*  
 ギャラリー  
 Gallery  
 展示紹介  
 第三回埋文アートギャラリー  
**かごしまの考古学**

今回の第3回埋文アートギャラリーは「かごしま黒の考古学」、すなわち黒を題材にしたテーマでお送りします。鹿児島には、黒豚や黒牛、黒砂糖や黒酢などのように「黒」の名がつく特産品が数多くあり、これを「黒の文化」と呼ぶ人もいます。

ここでは、鹿児島島の遺跡と「黒」との関わりを取り上げてみました。中でも、黒川洞穴(吹上町)は、縄文時代や弥生時代の暮らしを伝えるさまざまな遺物が出土した洞穴遺跡として知られています。埋文センターにお越しの際は、鹿児島島の「黒の文化」に触れてみてはいかがでしょうか。

埋蔵文化財センター  
 2階ロビーにて開催中!!



埋文だより 第36号

発行日 平成16年10月25日  
 編集・発行  
 鹿児島県立埋蔵文化財センター  
 〒899-4461  
 鹿児島県国分市上之段1175番地1  
 TEL 0995-48-5811  
 FAX 0995-48-5820  
 E-mail: maibun@jomon-no-mori.jp